

国立国語研究所学術情報リポジトリ

板碑の文字

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-08-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高田, 智和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003628



板碑の文字

高田智和(国立国語研究所)

板碑(いたび)とは

- 13世紀から16世紀にかけて造立された石製の供養塔
- 主に板状加工の青石塔婆
- 日本全国で5万基以上が現存(7割が関東)⇒”身近な文化財”
- 梵字種字(如来や菩薩を表す梵字)と記念銘(造立の日付)を記すのが基本
- 図像、造立の趣旨、真言を記すものもある



種字
キリーク
(阿弥陀)

銘文(紀年銘)
嘉暦三年六月
(1328年)

立川市の板碑で語彙量・文字量を計測
・立川市史編纂委員会『立川市史研究』
第5冊(立川市教育委員会、1966年)に
影印収録された66基を対象

- ・語彙量
延べ語数: 309語
異なり語数: 95語
1基あたりの平均語数: 4.2語
- ・文字量
延べ字数: 697字
異なり字数: 101字
1基あたりの平均字数: 8.8字
- ・板碑は、音韻、語彙、語法、文法を考
察するための言語資料には適さない
- ・しかし、日本中世金石文の文字・表記
資料としての利用は可能

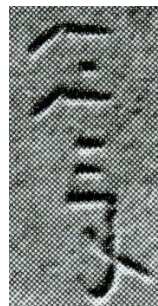
板碑の漢字字体—略字の使用—



嘉
暦
三
年



嘉
暦
四



曆
応
三
年